

階級的に之を以て、日本階級斗争は村方奪取の由緒づけつまつてゐるのだ。いかに現在の日帝国家権力の性格を規定し、いかに打倒するのたつていふ革命の根本問題下面的に解明するのことが迫らるゝのであり、その解明は階級斗争の発展そのものである。

へんてい全両面での竹槍、農庄、市民諸層へ、我々共産主義者同盟はこの階級斗争の階級的課題を解決するべきである。そこそこ我々は定規を以て階級斗争の発展を、我々の意識の発展と不可分のものとしていふべきである。7月4日「市民諸層、日帝打倒、プロレタリア独裁樹立、共産同盟政治委員会」は我々が現代革命の根本問題を提議し、かつ今秋佐藤助米阻止斗争を契機として、まず上層階級に對しては階級革命戦へ、日本階級斗争の発展を遂げるべき方針を提議したものである。

我々は階級革命戦争から開始して、この上層階級斗争から出発する。この上層階級斗争の性質の波は、帝国内向戦争を通じて、まず日帝打倒、かつ日帝共産主義運動の分割と階級斗争の不在として条件の下で、革命戦争といふべきである。一九六二年キエフ革命の勝利以降のキエフ、ゲバラに於ける中南米革命戦争の形成、ウエトナム民族解放戦線（フロンティア）の成長を打破した

斗いの六五年以降の勝利的最期のアジア革命戦争への拡大は、階級斗争の革命の電撃的勝利の地獄的拡大である。世界の多くの地域の人民は、日帝共産主義に對して、日帝打倒（フロンティア）斗争に打ち上つた。これはたつてたつた現代革命の新しい傾向を存在するのである。

このなかで、この階級斗争の階級的変化がもたらされてゐるのみ。現代過渡期世界構造の、この階級斗争の階級的変化を生み出したのである。中産階級の中産階級階級以降のモノ平和共存体制としての階級世界の相対的安定は帝国内向列強の側では、IMF、NAFTA、中東の国連と中東同盟で、各国の国家権力共産主義体制に對して保障された。政治制度としては議会制君主制であり、イデオロギーとしては平和共存、多国籍ナショナリズムであった。この帝国内向列強の支配体制は、カニ中産階級としての後進国民族ナショナリズムの相対的自立に於ける新植民地主義的権威や、IMF—管理通貨制度に於ける恒常的なインフレーションに於ける、世間の労働者、農民を体制的なたたきで搾取し、抑圧するものであったのである。ナショナルリベラリティーとしての労働組合も、日帝的なインフレと資本の私的治世体制に於ける、この支配体制

の一部に転化していった。

この帝国内向の支配構造の中で、人民の斗いはたつた開始である。国家権力の打倒せざるを得ないものとなり、世界的なものとなり、あらゆる階級、階層へと連続的にひろがっていき、中間的打倒の階級社会の幾何の要求へと昇進するものである。

こうしてプロレタリア人民の民族解放、社会主義を求めた斗いは、戦後世界全体に於ける階級斗争となり、彼等の斗いはそれ自体で世界革命の運動と組織の役割を現在も果たしてゐる。我々の世界革命戦争を日本に於いて開始するに於ける、帝国内向の階級斗争を総動員して、世界革命戦争の準備の中で、世界階級斗争を建設するにこそ目的とする。

全両面での労働者、農庄、市民諸層へ我々は、今まことに全く達した階級の階級に踏むべきでいなくてはならぬ。これは余りに奇妙なもので、誰も容易に反対を言ふことが格を排してゐるかも知れない。しかし、具體的の現象を具體的に分析するとき、最も原則的な事実が提呈される。これをいふべきは知るべきである。

7.4集会以上の意味で画期的な集會となつてゐる。その革命階級の労働者、農庄市民は7.4集会に結集せよ。

理論戦線

再版出来

- I 戦略論
 - II 運動 組織論
 - III 運動 組織論
 - IV 運動 組織論
- 理論戦線社
社会主義学生同盟
- A5版 百七十一
三〇〇円 二七〇円
- 理論戦線社
7月号 三〇〇円

共産主義者同盟
労対部パンフ

反帝統一戦線と
階級的労働運動

第一章 階級的労働運動の概観とは何ぞや

第二章 組織された暴力の位置

第三章 反レバ斗争の階級的意義

第四章 右派労働運動の性格と動向

百五〇円 一五〇円

共産主義青年同盟
パンフ

中央権力斗争

労働斗争論その1とその2

反帝統一戦線と4.28

100円 750円

申し込みは戦旗社まで
大阪市福島区サギス本通
1の16北村ビル内
〒105 四五六五九七